

## 令和 3 年度第 1 回総合計画審議会の意見提言への回答・対応

## 1. 第二期下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関するもの

基本目標	②東京圏からの新しいひとの流れをつくる 数値目標「東京圏からの転入者数」
委員名	坂村委員
意見・提言内容	東京圏からの転入者数とありますが、転入者や転出者がなぜ転入・転出するのか、その理由が分かれば教えてください。
担当課	総合政策課
総合計画審議会における発言等	(小谷野総合政策部長) 転出者については高校を卒業して首都圏への転出が多くなっておりまして。逆に転入につきましては年代別に見ますと 30 代から 40 代の方の転入が多いのですが、下野市では仁良川の区画整理事業を行っておりまして、新たな住居を求めて転入される方が多くなっておりまして。転入者については市民課でアンケートをとっております。また、昨年度国勢調査が実施され、先日、速報値が出されまして、下野市の人口は平成 27 年度の 59,431 人から、速報値ではありますが、48 名増の 59,479 人とほぼ横ばいとなりました。このあと詳細なデータが公表されましたら改めて分析していきたいと思っております。  (坂村委員) 転入、転出者の詳細な理由をさらに詳しくお調べいただければ我々の分からない理由などもあると思っておりますのでさらに詳しい調査をお願いします。
回答・対応	「資料 1 - 2」参照
推進本部より出された意見(回答・対応方針)	資料 1 - 2 の 4 頁にある魅力的で安定した雇用とあるが、産業分野では若年層の医療福祉分野への就業、または就業希望が多く、40 歳代の学術研究分野への就業が多いという特徴がみられる。 進学などで東京圏へ転出した若者が、栃木県での就職先がないためそのまま転出先の東京圏に就職することに目を向けて雇用の創出を考える必要がある。 産業振興計画に基づいて、下野市の特徴である自治医大病院を核とした医療分野の企業などを誘致することも検討する。
備考	参考 第二期下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 17 頁

基本目標	④「安心なくらしを守り幸せを実感できるまちをつくる」 KPI「シモツケ歴史館・しもつけ風土記の丘資料館入館者の合計」
委員名	岡田委員
意見・提言内容	<p>文化財事業について、歴史館も少し行くと上三川ですし、風土記の丘資料館も県道に沿って大きな古墳など文化財の重要資源があるが、小山市と栃木市と壬生町に跨っている。各市の計画はどうしても各市のPRのためのものになるが、たとえば小山、壬生を跨ったツアーなど、アフターコロナを見据えて長期的に検討してほしい。</p> <p>下野市庁内において複数の課を横断した取り組みや、近隣市町との連携など、広域的に進めてほしい。</p>
担当課	文化財課
総合計画審議会における発言等 (回答・対応方針)	<p>(岡田委員) No.35 下野薬師寺歴史館・しもつけ風土記の丘資料についてですが、個人的には応援したい事業です。昨年度に続き今年度も講座などを開催するのが難しいと思いますが、昨年度から大きく変わったのがしもつけ風土記の丘資料館が新しくなって、展示も最新の展示手法を使っていて、先日拝見したところ同じ展示でもストーリーが変わってとても感心しました。薬師寺歴史館についても2年前にボランティアの方と歴史館の周辺を歩くイベントに参加したところ、史跡とそこにすむ人の暮らしが調和していて素晴らしいと感じました。さらに近隣で発掘調査が公開されていたので参加したり、歴史館の講座にも参加しましたが、歴史館の開設20年を迎えますが、文化財課の研究調査も進んでいて、そういった知見を発表する場はとても貴重だと思います。これらの調査公開や講座などは継続することによって、リピーターが増え、参加者同士の交流が増えると思います。風土記の丘資料館については講座などをやる場はありますでしょうか。</p> <p>(近藤教育次長) 風土記の丘資料館につきましてはリニューアルをしまして、展示も充実しました。講座につきましても新館の会議室を使って充実させていければと思います。</p> <p>(岡田委員) 地域を知ることは地域プライドに繋がり、子ども達にとっても地域を愛することや、子供たちの自尊心を育むことにつながります。文化財事業をマニアックな事業としてとらえずに、下野市庁内においては複数の課を横断した取り組みや、近隣市町との連携など、広域的に進めていただければと思います。なぜかという、歴史館も少し行くと上三川ですし、風土記の丘資料</p>

	<p>館も県道に沿って大きな古墳など文化財の重要資源がありますが、小山市と栃木市と壬生町に跨ってあります。各市の計画はどうしても各市のPRのためのものになりますが、たとえば小山、壬生を跨ったツアーなどあればいいなと個人的に考えていまして、なかなか市町を超えた連携が難しいと思いますが、アフターコロナを見据えて長期的に検討していただけたらという意見です。</p>
回答・対応	<p>文化財の広域連携については上三川町、壬生町との連携は進めているところであり、またそこに小山市を加えた広域連携については今後検討してまいります。</p>
推進本部より 出された意見 (回答・対応方針)	<p>小山市とは、野木町も加えて電車を利用した文化財ツアーなども検討していく。駅から自転車で周遊するなど、複合的に文化財を巡るよう工夫が必要なので、壬生町、上三川町、小山市に加えて栃木市との連携と併せて検討していく。</p>
備考	<p>参考 第二期下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 31頁</p>

事業名	④「安心なくらしを守り幸せを実感できるまちをつくる」 具体的な施策・事業「グリムの森・グリムの館の管理運営及び利活用の促進」
委員名	高橋委員
意見・提言内容	グリムの館のお菓子の家は今空き家になっていて、新しい経営者の方を募集していたと思いますが、その後の動きがあれば教えてください。
担当課	生涯学習文化課
総合計画審議会 における発言等	
回答・対応	お菓子の家につきましては昨年 12 月をもって運営者が撤退しました。新型コロナウイルスの影響で収益が落ち込んでいたことが理由となります。新しい運営者については決定しまして、再開に向けて準備を進めているところであります。新しい運営者は宇都宮でマツガミネコーヒーを経営している方です。
推進本部より 出された意見 (回答・対応方針)	お菓子の家はマツガミネコーヒーが新しい事業者として選定され、令和 3 年 11 月 3 日に再オープンした。令和 2 年 11 月の売上が約 257,000 円、令和 3 年 11 月の売上が約 2,817,000 円と 10 倍以上の売上となっている。来場者も令和 2 年 11 月は 368 人で令和 3 年 11 月は 2,031 人と大幅に増えていることから、新しい人の流れができていていると感じている。
備考	参考 第二期下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 33 頁

## 2. 地方創生関連交付金に関するもの

事業名	6次産業化施設ゆうがおパークの活性化事業
委員名	佐間田委員
意見・提言内容	ゆうがおパークのような経営診断を別の売上が落ちている施設で利用できないものか。
担当課	農政課
総合計画審議会における発言等	(佐間田委員) ゆうがおパークの経営診断は、すごく改善していて、さすがプロの経営診断だなと感じましたが、こういう経営診断を別の売上が落ちている施設で利用できないものなののでしょうか。
回答・対応	他の事業でも経営が厳しいところがありますが、まずは各事業者が経営診断を自主的に行っていくことが基本だと思います。今回のゆうがおパークは公設民営の施設の経営診断ということで地方創生推進交付金を有効に活用する事業としてうまく合致したため採択されたものです。ゆうがおパークの経営改善は今回の経営診断の結果もあると思いますが、各事業者で運営する事業組合の組合員の方々が経営改善するという意識を持ってもらったことが大きいと思います。経営状態について悩みをもっている団体はおられますので、そういった団体とは今後情報交換をしていきたいと思います。
推進本部より出された意見 (回答・対応方針)	ゆうがおパークの経営状況については、経営診断を受けて企業組合が経営改善を行ったため収支は改善している。しかし、市内の団体は、経営状態についての悩みより構成メンバーの高齢化という問題を抱えている団体が多いため、そういった団体との情報共有は密にしていく。
備考	